

音楽科学習指導案

1 日 時 平成 年 月 日 () ~ 月 日 () 全8時間

2 学年・組 第 学年 組 (名)

3 場 所 年 組教室・音楽室

4 題 材 我が国や郷土の伝統音楽の魅力を味わおう～「壬生六斎念仏」の魅力を探ろう～

5 題材の目標

「壬生六斎念仏」で演奏されている和楽器の音色やリズム、旋律などに親しみ、それらを生かして自分たちの音楽をつくる活動を通して、京都の伝統音楽の特徴や演奏のよさを味わう。

6 本題材と学習指導要領のかかわり

・指導事項 A表現(3)音楽づくり イ, B鑑賞(1)イ

〔共通事項〕 ア(ア)音色・リズム・旋律・音階 (イ)反復・変化

7 題材設定の意図

(1) 題材について

本題材は、六斎念仏で演奏されている和楽器の音色やリズム、旋律などに親しみ、それらを生かして自分たちの音楽をつくる活動を通し、京都の伝統音楽の特徴や演奏のよさを味わうことをねらいとした題材である。

学習指導要領の鑑賞の指導事項では、主に「楽曲を全体にわたり感じ取ること」「楽曲の構造を理解して聴くこと」「楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること」の三つが挙げられている。そこで、第1時の新しい楽曲との出会いの場面では、「壬生六斎念仏」の本物の音色にふれ、楽曲を全体にわたり感じ取ることができるようにしたい。第2時では、子どもに聴き取りやすい、「子ども六斎」の一曲『祇園ばやし』を教材とし、感じたことを話し合い、音楽のどこからそう感じたのかをもう一度聴き返すことで、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴くことができるようにしたい。

第3時から第5時までは、鑑賞の活動で学んだ、音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かし、自分たちで「六斎念仏」の音楽をつくる。第6時・第7時では、つくった音楽を発表し、見通しをもって一つのまとまりのある音楽をつくることで、それぞれがつくった音楽のよさを交流し認め合う場としたい。

第8時では、音楽づくりで培った力を生かし、再び鑑賞する活動を行う。第1時・第2時で聴いた曲をもう一度聴き、感じたことや気付いたことを振り返ることにより、音楽を形づくっている要素に改めて気付くことができるようにしたい。また、「壬生六斎念仏」の紹介文を書いて、友だちに楽曲の特徴や演奏のよさを伝えるときにも、自分たちの地域にあるすばらしい伝統音楽を大切にしたいという思いをもつことができればと考える。

このように、鑑賞と表現(音楽づくり)の活動を関連付けて学習を進めることで、主体的・創造的に取り組む力の育成を目指したい。また、このような学習の積み重ねが、音楽と生活との関わりに関心をもち、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むことにつながると考える。

(2) 題材の構造図

「壬生六斎念仏」の魅力を探ろう

題材の目標：「壬生六斎念仏」で演奏されている和楽器の音色やリズム、旋律などに親しみ、それらを生かして自分たちの音楽をつくる活動を通して、京都の伝統音楽の特徴や演奏のよさを味わう。(全8時間)

…題材を通して指導する、〔共通事項〕に示された音楽を形づくっている要素

(①時間目)

「壬生六斎念仏」の本物の音色にふれよう。

「壬生六斎念仏」の演奏を視聴する。

◇鑑賞1H

<感じたこと>

- ・日本らしい音楽だね。
- ・お祭りみたい。
- ・にぎやかな感じがする。

<気付いたこと>

- ・三つの和楽器で演奏されているよ。(音色)
- ・鉦は打つ場所で、音色がちがうよ。
- ・私たちが住んでいる地域には、すばらしい伝統があるんだね。

もっと「壬生六斎念仏」の魅力を知りたいな。

(②時間目)

「子ども六斎」の一曲『祇園ばやし』を聴き、曲の魅力を探ろう。

◇鑑賞1H

音色

リズム

旋律

音階

反復

変化

- ・三つの音色が聴き分けられたよ。
- ・太鼓のリズムはちょっと難しいね。
- ・何回かくり返しがあるね。(反復)
- ・鉦の音色に高さがあるね。
- ・笛の旋律は少ない音階でつくられているんだね。
- ・少し曲の感じが変わる部分があるよ。(変化)

～鑑賞の活動で学んだことを生かして、音楽づくりの活動へ～

グループで
(③～⑥時間目)

自分たちで「〇〇六斎念仏」をつくろう。

〇音楽づくり1.5H

鉦のリズム

太鼓のリズム

笛の旋律

- ・リズムを組み合わせよう。
- ・打つ場所で音色を変えてみよう。
- ・笛の旋律を「祇園ばやし」と同じ音階でつくろう。
- ・〇回反復しよう。
- ・かけ声も入れよう。

- ③鉦のリズムをつくる。
- ④太鼓のリズムをつくる。
- ⑤笛の旋律をつくる。
- ⑥更に工夫する。(強弱、反復、かけ声など)

「祇園ばやし」の曲の仕組みを生かして音楽をつくることができたね。

クラスで
(⑦時間目)

一つのまとまりのある音楽をつくる

～音楽づくりで培った力を生かして、再び鑑賞の活動へ～

(⑧時間目)

もう一度「壬生六斎念仏」を聴き、曲の魅力を紹介しよう。

◆鑑賞1H

- ・改めて聴いてみると、音色の違いや反復・変化などがよくわかったよ。
- ・実際に六斎念仏を聴きに行きたくなったよ。
- ・地域の伝統音楽を大切にしたいな。

わたしたちが感じた地域の伝統音楽のよさをみんなに伝えたいな。

8 教材について

「壬生六斎念仏」から『祇園ばやし』

「祇園ばやし」は、どこの芸能六斎団体にもある演目で、実際の祇園祭のお囃子よりも軽快でテンポが速いという特徴がある。「芸もの」と呼ばれ、壬生六斎念仏では、祇園祭綾傘鉦のお囃子で棒振りの芸が入る演目である。金と銀の太鼓を打ち交わし、徐々に曲調が激しくなって、踊りながら舞台を巡るという踊り打ちが、この演目の見どころである。鉦と太鼓と笛の音の重なりや、反復・変化の特徴を視聴しやすい教材である。

「子ども六斎」から『祇園ばやし』


子どもによる六斎念仏の曲で、壬生六斎念仏の「祇園ばやし」とは異なる。子どもが聴き取りやすいように、壬生六斎念仏の方に録音していただいたものである。「つくし」「ながし」「あげ」をつなげて構成されている。鉦と太鼓と笛の音の重なりや、反復・変化の特徴を聴き取りやすい教材である。

9 題材の評価規準及び評価の視点

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
音楽づくり	○	○	○	
鑑賞	○			○
題材の評価規準	曲想とその変化などの特徴、楽曲の構造、楽曲の特徴や演奏のよさ、音楽の仕組みに興味・関心をもち、鑑賞や音楽づくりの学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音を音楽に構成していくことを工夫し、どのように自分たちの音楽をつくるかについて見通しをもっている。	音楽の仕組みを生かすなどの基礎的な技能を身に付けて、音を音楽に構成している。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲想とその変化などの特徴を感じ取ったり、楽曲の構造、楽曲の特徴や演奏のよさを理解したりして、味わって聴いている。
評価の視点	①楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 ②鑑賞の活動で学んだ、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成することに興味・関心をもち、見通しをもって鉦のリズムをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	①鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのように太鼓のリズムをつくるかについて自分の考えや見通しをもっている。 ②鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白	①鑑賞の活動で学んだ、反復や変化などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもって鉦と太鼓のリズムに合った笛の旋律をつくっている。 ②鑑賞の活動で学んだ、反復や変化などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもってクラスで一つのまとまりのある音楽をつくっている。	①音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。 ②音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などの関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを

		<p>さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのようにクラスで一つのまとまりのある音楽をつくるかについて、自分の考えや願い、意図、見通しをもっている。</p>		<p>紹介文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。</p>
--	--	--	--	--

10 指導と評価の計画（全8時間）

	○研究テーマにせまるための 主な学習活動	 本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
第1次 2	<p><ねらい> 「壬生六斎念仏」で演奏されている和楽器の音色やリズム、旋律などに親しみ、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴く。</p> <p><教材> 「壬生六斎念仏」から『祇園ばやし』・「子ども六斎」から『祇園ばやし』</p> <p>[共通事項] ア (ア) 音色・リズム・旋律・音階 (イ) 反復・変化</p>		
1	○「壬生六斎念仏」の演奏を視聴し、和楽器の音色やリズム、旋律などに親しむ。	<p>*三つの和楽器（笛・太鼓・鉦）で演奏されていることや、奏法によって音色が変わること、曲の中に変化があることを知ることにより、これからの活動の見通しをもって演奏を聴くことができるようにする。</p>	<p>【アー①】 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 (聴いている様子の観察・発言・学習カード)</p>
2	○「子ども六斎」の一曲『祇園ばやし』を聴き、曲の魅力を探る。	<p>*聴くポイントを変えて何回も曲を聴くことにより、音楽を形づくっている要素である音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などに気付くことができるようにする。</p>	<p>【エー①】 音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。 (聴いている様子の観察・発言・学習カード)</p>
第2次 5	<p><ねらい> 鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などを聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かし、自分たちの音楽をつくる。</p> <p><教材> (参考教材)「子ども六斎」から『祇園ばやし』</p> <p>[共通事項] ア (ア) 音色・リズム・旋律・音階 (イ) 反復・変化</p>		

3	○「祇園ばやし」の曲の感じを生かして、グループで鉦のリズムをつくる。	*鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、鉦のリズムをつくることができるようにする。	【ア-②】 鑑賞の活動で学んだ、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成することに興味・関心をもち、見通しをもって鉦のリズムをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 (つくっている様子の観察・発言・アレンジカード・学習カード)
4	○「祇園ばやし」の曲の感じを生かして、鉦に合った太鼓のリズムをつくる。	*鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、太鼓のリズムをつくることができるようにする。	【イー①】 鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのように太鼓のリズムをつくるかについて自分の考えや見通しをもっている。 (つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カード)
5	○鉦と太鼓のリズムに合った笛の旋律をつくる。	*鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、笛の旋律をつくることができるようにする。	【ウー①】 鑑賞の活動で学んだ、反復や変化などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもって鉦と太鼓のリズムに合った笛の旋律をつくっている。 (演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カード)
6	○自分たちでつくった音楽を、更に工夫する。	*鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、音楽をつくることができるようにする。	【イー②】 鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのようにクラスで一つのまとまりのある音楽をつくるかについて、自分の考えや願い、意図、見通しをもっている。 (つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カード)

7	○自分たちのつくった音楽をつなげて、クラスで一つのまとまりのある音楽をつくる。	*鑑賞の活動で学んだ、反復・変化などの音楽の仕組みを生かすことにより、クラスで一つのまとまりの音楽をつくることができるようにする。	【ウー②】 鑑賞の活動で学んだ、反復や変化などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもってクラスで一つのまとまりのある音楽をつくっている。 (演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カード)
第3次 1	<p><ねらい> 音楽づくりの活動で培った力を生かし、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴く。</p> <p><教材> 「壬生六斎念仏」から『祇園ばやし』</p> <p>[共通事項] ア (ア) 音色・リズム・旋律・音階 (イ) 反復・変化</p>		
8	<p>○もう一度「壬生六斎念仏」を聴き、曲のよさを紹介する。</p> <p>(紹介文の例) 「壬生六斎念仏」は、鉦・太鼓・笛の三つの和楽器で演奏されています。鉦は、打つ場所で音色の高さが変わるので、にぎやかな感じがします。笛は、音階が決まっています。日本らしい感じがします。いくつかのまとまりが反復されて、音楽ができています。壬生六斎は、私たちが住んでいる壬生で昔から伝わっている伝統音楽です。ぜひ聴いてみてください。</p>	<p>*何回か曲を聴いたり、楽譜をよく見たりすることにより、音楽を形づくっている要素である音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などに気付くことができるようにする。</p> <p>*①楽器の種類、②音楽を形づくっている要素などを用いて紹介文を書くことにより、楽しい曲の特徴や演奏のよさを伝えることができるようにする。</p>	【エー②】 音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などの関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。 (聴いている様子の観察・発言・紹介文)

1 1 本時の学習（1／8時）

- (1) 目標 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組む。
 (2) 展開

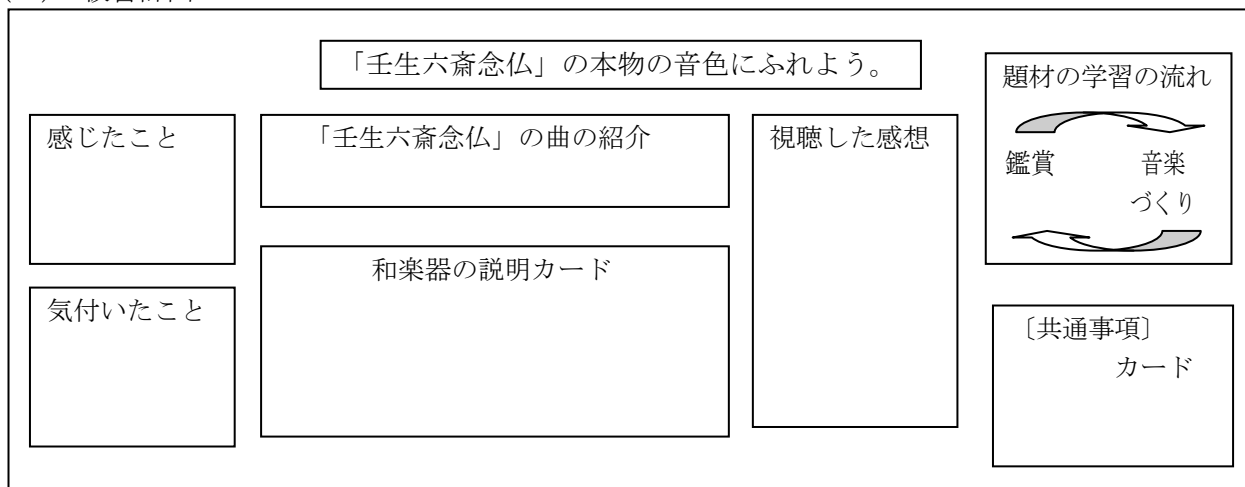
学習活動 「 」発問 ・児童の反応	*支援 ○留意点 本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 「壬生六斎念仏」について知っていることを話し合う。 『壬生六斎念仏』について何か知っている人はいますか。」 ・楽器を使うよ。 ・お祭りで見たことがあるよ。 ・最後に獅子舞が出てくるよ。</p> <p>2 本時のめあての確認をする。</p>	<p>○地域の伝統音楽についてどれだけ知っているかを確認する。</p>	
<p>「壬生六斎念仏」の本物の音色にふれよう。</p>		
<p>3 「壬生六斎念仏」の曲を聴いたり、映像を観たりする。 「地域に受け継がれている伝統音楽である『壬生六斎念仏』の曲を聴いたり、映像を観たりしましょう。」 ・自分たちの地域には、すばらしい伝統があるんだね。 ・三つの和楽器で演奏されているんだね。 ・鉦は、打つ場所によって音色が高くなるんだね。 ・ゆっくりになったり速くなったりするよ。</p>	<p>*地域に受け継がれている伝統音楽であることを知ることにより、興味・関心をもつことができるようにする。 ○〔共通事項〕カード（音楽を形づくっている要素が書かれたカード）を提示する。</p> <p>*三つの和楽器（笛・太鼓・鉦）で演奏されていることや、奏法によって音色が変わること、曲の中に変化があることを知ることにより、これからの活動の見通しをもって演奏を聴くことができるようにする。</p>	<p>【ア－①】 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 (聴いている様子の観察・発言・学習カード)</p>
<p>4 視聴した感想を交流する。 「曲を聴いたり、映像を観たりして、どんな思いをもちましたか。」 ・本当のお祭りみたいで、にぎやかな感じがしたよ。 ・楽器の名前が分かったよ。 ・もう少しくわしく知りたいな。</p>	<p>*視聴した感想を交流することにより、次時の活動につなげることができるようにする。</p>	
<p>5 次時の予告をする。 「次の時間は、『子ども六斎』の一つの曲の魅力を見つけましょう。」</p>	<p>○視聴した感想を学習カードに書く。 ○次時は、「子ども六斎」の曲のよさを見つける学習をすることを予告する。</p>	

(3) 評価活動の実際

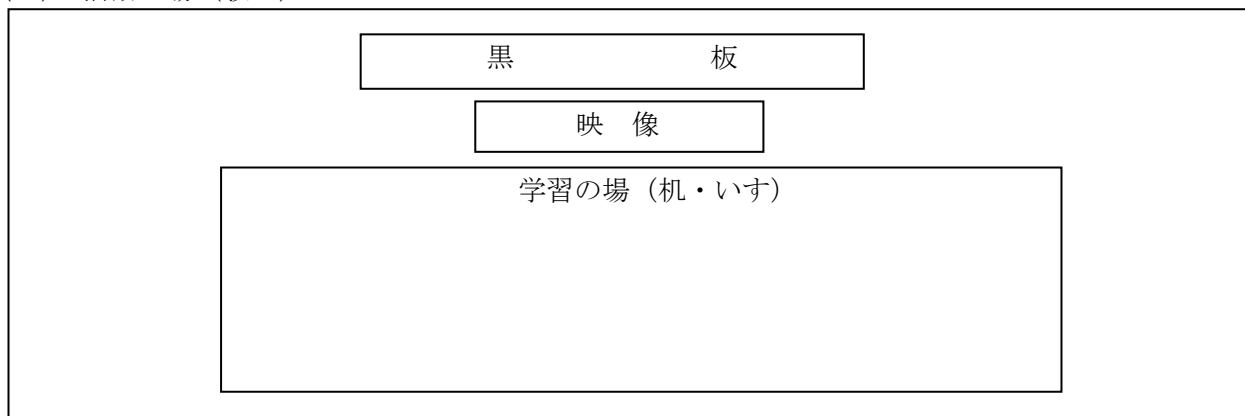
【音楽への関心・意欲・態度】(1/8時)

評価の視点とその具体の姿	
<p>○評価の視点 【ア-①】 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	
↑	↓
<p>○支援が必要とされる子どもへの働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奏法によって、音色が変わることが聴き取りにくい子どもには、実際に楽器を見せ音色を聴くことで気付くことができるようにする。 ・変化が聴き取りにくい子どもには、変化が分かる時の映像を観たり、声をかけたりして、気付くことができるようにする。 	<p>○質的に高まった状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れを感じながら聴いたり、発言したりする活動に意欲的に取り組んでいる。
<p>○具体的な評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏のよさを感じ取って聴く学習に進んで取り組んでいるかどうかを、聴いている様子の観察・発言・学習カードから見取る。 	

(4) 板書計画



(5) 活動の場(教室)



1 1 本時の学習（2／8時）

(1) 目標 音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴く。

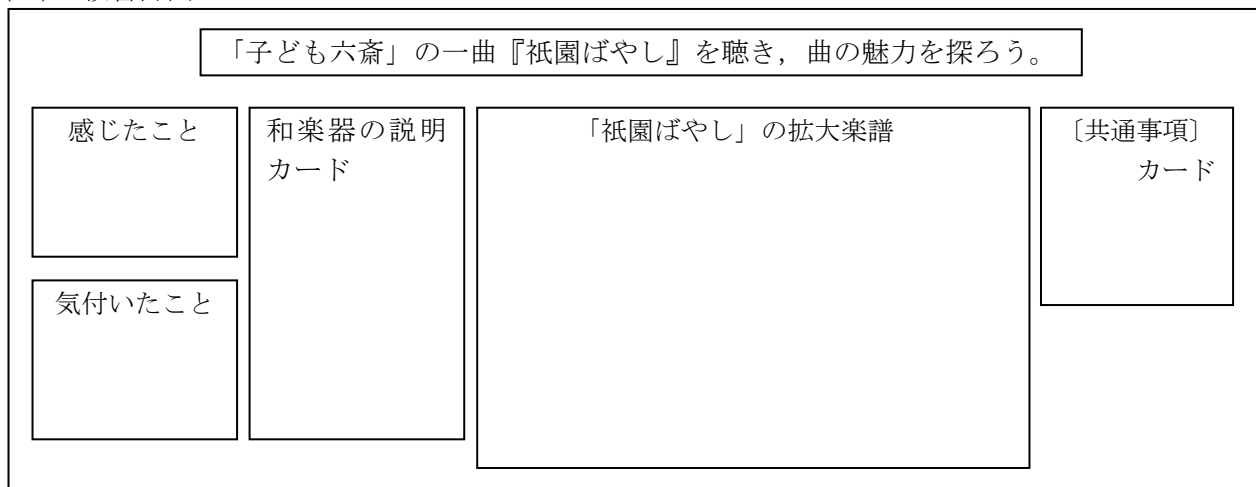
(2) 展開

学習活動 「 」発問 ・児童の反応	*支援 ○留意点 ■本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 前時の学習を想起する。 「視聴した感想を交流しましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にぎやかな感じだったね。 ・曲の中に変化があったよ。 <p>2 本時のめあての確認をする。</p>	<p>*前時で書いた学習カードをもとに，全体で交流することにより，学習の見通しをもつことができるようにする。</p>	
<p>「子ども六斎」の一曲『祇園ばやし』を聴き，曲の魅力を探ろう。</p>		
<p>3 曲を聴いて，感じたことや気付いたことを交流する。 「どんな感じがしましたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本らしい感じがするよ。 ・お祭りみたいな感じがするよ。 <p>「音楽のどこからそう感じましたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三つの和楽器で演奏されていたから日本らしい音楽だと思ったよ。 ・笛の音色を聴いていると，お祭りみたいな感じがするよ。 <p>「『祇園ばやし』の前半部分を聴き，もっと曲の魅力を探しましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉦だけ聴いていると，音色に高さがあったり，リズムが聴き取れるようになったよ。 ・太鼓のリズムはくり返しているね。 ・曲に変化があるね。 <p>4 次時の予告をする。 「次時からは，『祇園ばやし』の曲の感じを生かして，自分たちで音楽をつくっていきましょう。」</p>	<p>*感じたことを話し合い，音楽のどこからそう感じたのかをもう一度聴き返すことにより，音楽を形づくっている要素と関連させることができるようにする。</p> <p>○感じたことと気付いたことを，分けて板書する。</p> <p>○〔共通事項〕カードを提示する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>*聴くポイントを変えて何回も曲を聴くことにより，音楽を形づくっている要素である音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などに気付くことができるようにする。</p> </div> <p>*気が付いたときは手を挙げたり，演奏の真似をしたりすることにより，与えた視点をとらえているか，確認するようにする。</p> <p>*楽譜を提示することにより，気付いたことを視覚的に確かめることができるようにする。</p> <p>○学習したことを，学習カードに書く。</p> <p>○次時から，グループに分かれて音楽をつくり，クラスで一つのまとまりのある音楽を完成させることを予告する。</p>	<p>【エー①】</p> <p>音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。 (聴いている様子の観察・発言・学習カード)</p>

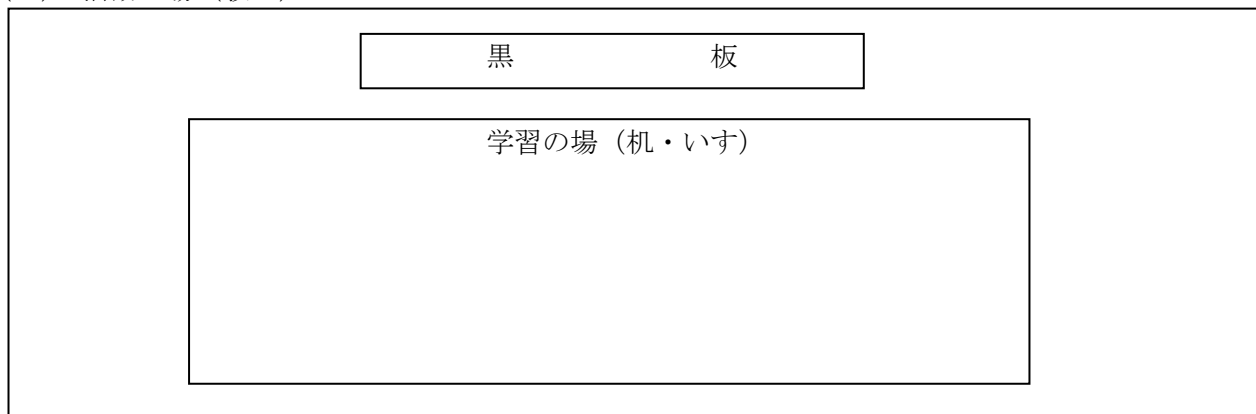
(3) 評価活動の実際
【鑑賞の能力】(2/8時)

評価の視点とその具体の姿	
<p>○評価の視点 【エー①】 音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。</p>	
↑	↓
<p>○支援が必要とされる子どもへの働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を聴き取りにくい子どもには，既習の学習や，[共通事項]カードの掲示を見て，どれにあてはまるか考えるように助言する。 ・学習カードに書くことができにくい子どもには，板書を参考にしたり，音楽を形づくっている要素の言葉を用いて書いたりするように助言する。 	<p>○質的に高まった状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや気付いたことについて，音楽を形づくっている要素の言葉を用いて，積極的に発言している。 ・音楽を形づくっている要素の言葉を的確に使い，学習カードに書いている。
<p>○具体的な評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや気付いたことを，音楽を形づくっている要素と関連付けて考えられているかどうかを，聴いている様子の観察や発言，学習カードから見取る。 	

(4) 板書計画



(5) 活動の場(教室)



1 1 本時の学習 (3 / 8 時)

- (1) 目標 鑑賞の活動で学んだ、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成することに興味・関心を持ち、見通しをもって鉦のリズムをつくる学習に主体的に取り組む。
- (2) 展開

学習活動 「 」発問 ・児童の反応	*支援 ○留意点 ■本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 前時の学習を想起する。 「『祇園ばやし』はどんな感じの曲でしたか。」 ・にぎやかな感じだったね。 ・三つの和楽器は、違う音色だったね。 ・反復や変化があったね。</p> <p>2 本時のめあての確認をする。</p>	<p>*前時の学習を想起し、曲想や音楽を形づくっている要素について確かめることにより、学習の見通しをもつことができるようにする。</p>	
<p>「祇園ばやし」の曲の感じを生かして、グループで鉦のリズムをつくろう。</p>		
<p>3 音楽をつくる時の工夫について、全体で話し合う。 「全体で鉦のリズムの作り方を確認しましょう。」 ・打つ場所(底とふち)によって音色が変わるんだね。 ・楽譜に△や●などをつけて、2拍子で4小節の音楽をつくるんだね。</p> <p>4 グループに分かれて、鉦のリズムをつくる。 「グループに分かれて練習し、鉦のリズムを完成させましょう。」 ・にぎやかな感じになるように、音色の高さを変えてみよう。 ・お祭りの感じになるように、リズムを細かくしてみよう。</p> <p>5 つくった音楽を何グループか発表し、全体で聴き合う。 「感じに合った音楽になっているかどうか、聴きましょう。」 ・にぎやかな感じになるように、鉦のリズムをつくりました。 ・音色が変わったから、にぎやかで楽しそうな感じがしたよ。</p> <p>6 次時の予告をする。 「次時は、鉦のリズムに合った太鼓のリズムをつくりましょう。」</p>	<p>*全体で、鉦の奏法、楽譜の作り方などを確認することにより、グループ活動がスムーズにできるようにする。</p> <p>*「祇園ばやし」の演奏を模倣することにより、鉦のリズムの作り方をイメージできるようにする。</p> <p>○グループ用の楽譜(アレンジカード)を用意し、話し合った工夫を書き込む。 ○鉦の代替物を用意する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">*鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、鉦のリズムをつくることができるようにする。</p> <p>*どんな感じになるように音楽を工夫してつくったのかを伝えてから発表することにより、聴くポイントをもって聴くことができるようにする。</p> <p>*感じに合った音楽になっているかを交流することにより、つくった音楽のよさを認め合うことができるようにする。</p> <p>○学んだことを、学習カードに書く。</p>	<p>【ア-②】 鑑賞の活動で学んだ、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成することに興味・関心を持ち、見通しをもって鉦のリズムをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 (つくっている様子の観察・発言・アレンジカード・学習カード)</p>

(3) 評価活動の実際

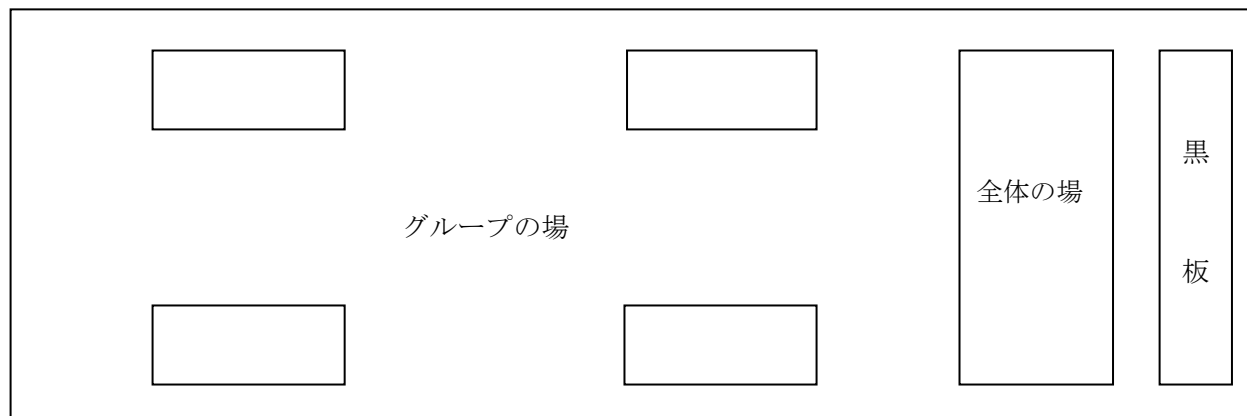
【音楽への関心・意欲・態度】(3/8時)

評価の視点とその具体の姿	
<p>○評価の視点 【ア-②】 鑑賞の活動で学んだ、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成することに興味・関心をもち、見通しをもって鉦のリズムをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	
<p>○支援が必要とされる子どもへの働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習で、進んで考えたり音楽をつくったりすることができにくい子どもには、グループの友だちの意見を聞いたり、友だちの音をよく聴いてつくったりするように助言する。 	<p>○質的に高まった状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい演奏にしようと、グループのみんなに積極的に声をかけている。 ・表現の工夫に気付き、積極的に発言している。
<p>○具体的な評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉦のリズムをつくる学習に進んで取り組んでいるかどうかを、つくっている様子の観察・発言・アレンジカード・学習カードから見取る。 	

(4) 板書計画

「祇園ばやし」の曲の感じを生かして、グループで鉦のリズムをつくろう。		
感じたこと	「祇園ばやし」の拡大楽譜	「祇園ばやし」で使われている鉦のリズム
気付いたこと		リズム例
		グループ活動の進め方

(5) 活動の場(音楽室)



1 1 本時の学習（4／8時）

(1) 目標 鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのように太鼓のリズムをつくるかについて自分の考えや見通しをもつ。

(2) 展開

学習活動 「 」発問 ・児童の反応	*支援 ○留意点 本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 前時の学習を想起する。 「前時につくった、鉦のリズムを演奏しましょう。」</p> <p>2 本時のめあての確認をする。</p>	<p>*前時の学習を想起することにより、学習の見通しをもつことができるようにする。</p>	
<p>「祇園ばやし」の曲の感じを生かして、鉦に合った太鼓のリズムをつくろう。</p>		
<p>3 音楽をつくるときの工夫について、全体で話し合う。 「全体で太鼓のリズムの作り方を確認しましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ばちを上からおろすことで、強く打つことができるんだね。 ・鉦のリズムに合うように、音符をつけて楽譜をつくるんだね。 	<p>*全体で、太鼓の奏法、楽譜の作り方などを確認することにより、グループ活動がスムーズにできるようにする。</p> <p>*「祇園ばやし」の演奏を模倣することにより、太鼓のリズムの作り方をイメージできるようにする。</p> <p>○鉦の代替物、豆太鼓とばちをグループごとに用意する。</p> <p>*練習の進め方を提示することにより、グループで活動しやすいようにする。</p>	
<p>4 グループに分かれて、鉦に合った太鼓のリズムをつくる。 「グループに分かれて練習し、太鼓のリズムを完成させましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にぎやかな感じになるように、強さを変えてみよう。 ・鉦に合わせるために、音符を少なくしてみよう。 	<p>○グループ用の楽譜（アレンジカード）を用意し、話し合った工夫を書き込む。</p> <p>*鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、太鼓のリズムをつくることができるようにする。</p>	<p>【イー①】 鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのように太鼓のリズムをつくるかについて自分の考えや見通しをもっている。</p>
<p>5 つくった音楽を何グループか発表し、全体で聴き合う。 「感じに合った音楽になっているかどうか、聴きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にぎやかで楽しそうな感じがしたよ。 ・鉦のリズムとよく合っていたよ。 	<p>*感じに合った音楽になっているかを交流することにより、つくった音楽のよさを認め合うことができるようにする。</p>	<p>(つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カード)</p>
<p>6 次時の予告をする。 「次時は、鉦と太鼓のリズムに合った笛の旋律をつくりましょう。」</p>	<p>○学んだことを、学習カードに書くようにする。</p>	

(3) 評価活動の実際

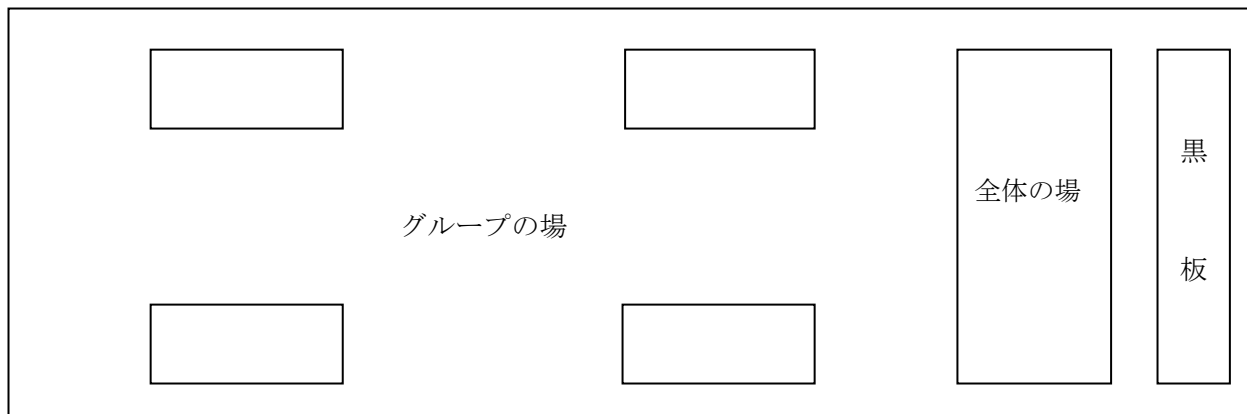
【音楽表現の創意工夫】(4/8時)

評価の視点とその具体の姿	
<p>○評価の視点</p> <p>【イー①】</p> <p>鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのように太鼓のリズムをつくるかについて自分の考えや見通しをもっている。</p>	
↑	↓
<p>○支援が必要とされる子どもへの働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習で、音楽をつくることができにくい子どもには、板書を見たり、グループの友だちの意見を聞いたりして、音楽をつくるように助言する。 ・表現の工夫に気付きにくい子どもには、グループのめあてを意識して聴くように助言する。 	<p>○質的に高まった状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい演奏にしようと、グループのみんなに積極的に声をかけている。 ・表現の仕方を工夫し、音楽を形づくっている要素を生かした演奏をしている。
<p>○具体的な評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の活動で学んだ、音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かして、どのように太鼓のリズムをつくっているかどうかを、つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カードから見取る。 	

(4) 板書計画

「祇園ばやし」の曲の感じを生かして、鉦に合った太鼓のリズムをつくろう。		
感じたこと 気付いたこと	「祇園ばやし」の 拡大楽譜	「祇園ばやし」で使われている太鼓のリズム リズム例 グループ活動の進め方

(5) 活動の場(教室)



1 1 本時の学習 (5 / 8 時)

(1) 目標 鑑賞の活動で学んだ, 反復や変化などの音楽の仕組みを生かし, 見通しをもって鉦と太鼓のリズムに合った笛の旋律をつくる。

(2) 展開

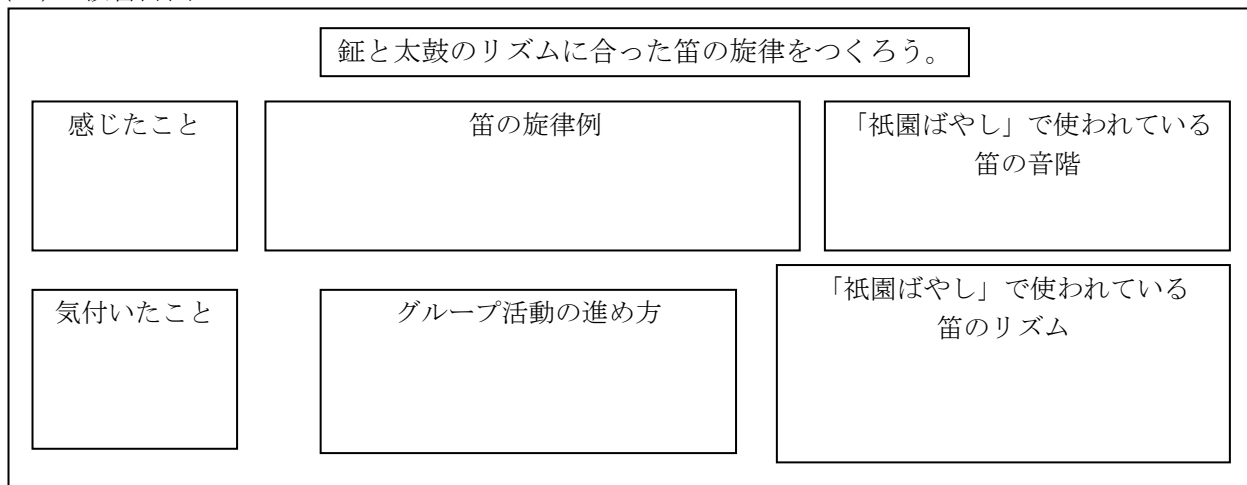
学習活動 「 」発問 ・児童の反応	*支援 ○留意点 ■ 本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 前時の学習を想起する。 「前時につくった, 鉦と太鼓のリズムを演奏しましょう。」</p> <p>2 本時のめあての確認をする。</p>	<p>*前時の学習を想起することにより, 学習の見通しをもつことができるようにする。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">鉦と太鼓のリズムに合った笛の旋律をつくろう。</div>		
<p>3 音楽をつくるときの工夫について, 全体で話し合う。 「全体で笛の旋律の作り方を確認しましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーで旋律をつくるんだね。 ・鉦や太鼓のリズムに合うように, リズムや音階を考えて楽譜をつくるんだね。 	<p>*全体で, 楽譜の作り方などを確認することにより, グループ活動がスムーズにできるようにする。</p> <p>*六斎念仏の演奏を模倣することにより, 笛の旋律の作り方をイメージできるようにする。</p> <p>○鉦の代替物, 豆太鼓とばち, リコーダーをグループごとに用意する。</p> <p>*練習の進め方を提示することにより, グループで活動しやすいようにする。</p>	
<p>4 グループに分かれて, 鉦と太鼓のリズムに合った笛の旋律をつくる。 「グループに分かれて練習し, 笛の旋律を完成させましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にぎやかな感じになるように, 音階のつなげ方を考えよう。 ・鉦や太鼓のリズムに合うように, はずんだリズムにしよう。 	<p>○グループ用の楽譜 (アレンジカード) を用意し, 話し合った工夫を書き込む。</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>*鑑賞の活動で学んだ, 音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などの音楽を形づくっている要素を聴き取り, そのよさを感じ取る力を生かすことにより, 笛の旋律をつくることができるようにする。</p> </div>	<p>【ウー①】 鑑賞の活動で学んだ, 反復や変化などの音楽の仕組みを生かし, 見通しをもって鉦と太鼓のリズムに合った笛の旋律をつくっている。 (演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カード)</p>
<p>5 つくった音楽を何グループか発表し, 全体で聴き合う。 「感じに合った音楽になっているかどうか, 聴きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にぎやかで楽しそうな感じがしたよ。 ・笛の旋律が, 鉦や太鼓のリズムとよく合っていたよ。 	<p>*感じに合った音楽になっているかを交流することにより, つくった音楽のよさを認め合うことができるようにする。</p>	
<p>6 次時の予告をする。 「次時は, つくった音楽の工夫を考えましょう。」</p>	<p>○学んだことを, 学習カードに書くようにする。</p>	

(3) 評価活動の実際

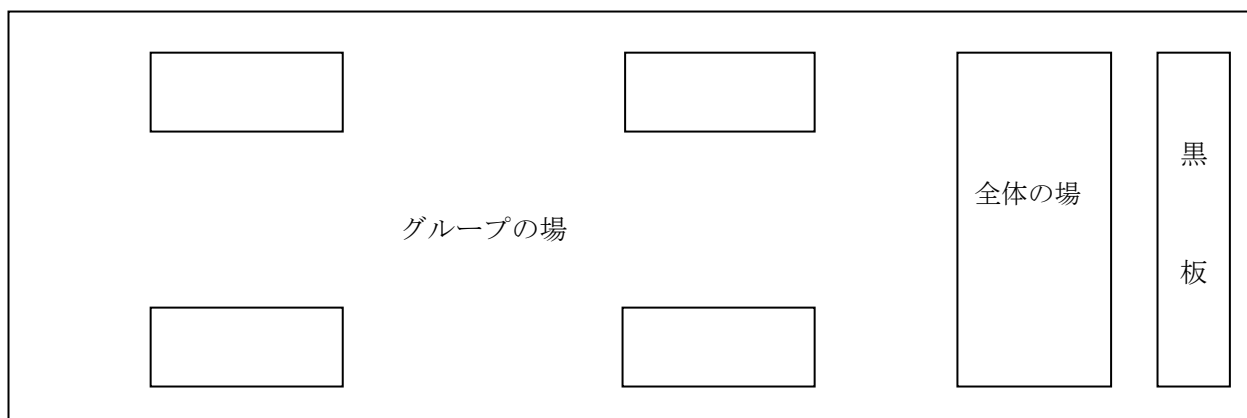
【音楽表現の技能】(5/8時)

評価の視点とその具体の姿	
○評価の視点 【ウー①】 鑑賞の活動で学んだ、反復や変化などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもって鉦と太鼓のリズムに合った笛の旋律をつくっている。	
○支援が必要とされる子どもへの働きかけ ・グループ学習で、音楽をつくることができにくい子どもには、板書を見たり、グループの友だちの意見を聞いたり、友だちの音をよく聴いたりして、音楽をつくるように助言する。	○質的に高まった状況 ・よりよい演奏にしようと、グループのみんなに積極的に声をかけている。 ・表現の仕方を工夫し、音楽を形づくっている要素を生かした演奏をしている。
○具体的な評価方法 ・鑑賞の活動で学んだ、音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かして、鉦と太鼓のリズムに合った笛の旋律をつくっているかどうかを、演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カードから見取る。	

(4) 板書計画



(5) 活動の場 (音楽室)



1 1 本時の学習（6／8時）

(1) 目標 鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのようにクラスで一つのまとまりのある音楽をつくるかについて、自分の考えや願い、意図、見通しをもつ。

(2) 展開

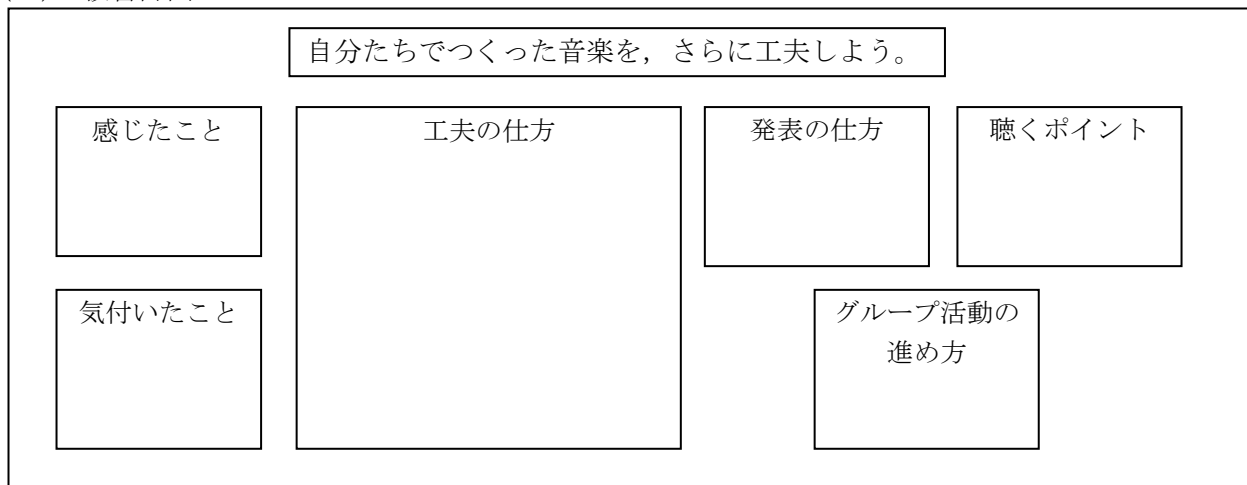
学習活動 「 」発問 ・児童の反応	*支援 ○留意点 本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
1 前時の学習を想起する。 「グループでつくった音楽を演奏しましょう。」	*前時の学習を想起することにより、学習の見通しをもつことができるようにする。	
2 本時のめあての確認をする。		
自分たちでつくった音楽を、さらに工夫しよう。		
3 音楽をつくるときの工夫について、全体で話し合う。 「全体で工夫の仕方を確認しましょう。」 ・反復をつかって工夫するんだね。 ・途中で速くして、変化をつけよう。 ・かけ声を入れてもいいんだね。	*全体でもう一度「祇園ばやし」を聴き、工夫の仕方を確認することにより、グループ活動がスムーズにできるようにする。 ○鉦の代替物、豆太鼓とばち、リコーダーをグループごとに用意するようにする。 *練習の進め方を提示することにより、グループで活動しやすいようにする。	
4 グループに分かれて、更に工夫する。 「グループに分かれて、つくった音楽を更に工夫しましょう。」 ・つくった音楽を2回反復しよう。 ・2回目は少し速くして、変化をつけよう。 ・かけ声を入れて元気な感じにしよう。	○グループ用の楽譜（アレンジカード）を用意し、話し合った工夫を書き込む。 *鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、音楽をつくることができるようにする。	【イー②】 鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのようにクラスで一つのまとまりのある音楽をつくるかについて、自分の考えや願い、意図、見通しをもっている。
5 つくった音楽を聴き合う。 「感じに合った音楽になっているかどうか、聴き合ひましょう。」 ・にぎやかな感じになるように、鉦と太鼓のリズムを細かくしてみました。2回反復してかけ声も入れました。聴いてください。 ・リズムが細かくて鉦の音色も高さが違ったので、にぎやかな感じがしました。もう少しかけ声を大きくしたらいいと思います。	*どんな感じになるように音楽を工夫してつくったのかを伝えてから発表することにより、聴くポイントをもって聴くことができるようにする。 *感じに合った音楽になっているかを交流することにより、つくった音楽のよさを認め合うことができるようにする。	(つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カード)
6 次時の予告をする。 「次時は、クラスで一つの音楽を完成させましょう。」	○学んだことを、学習カードに書くようにする。	

(3) 評価活動の実際

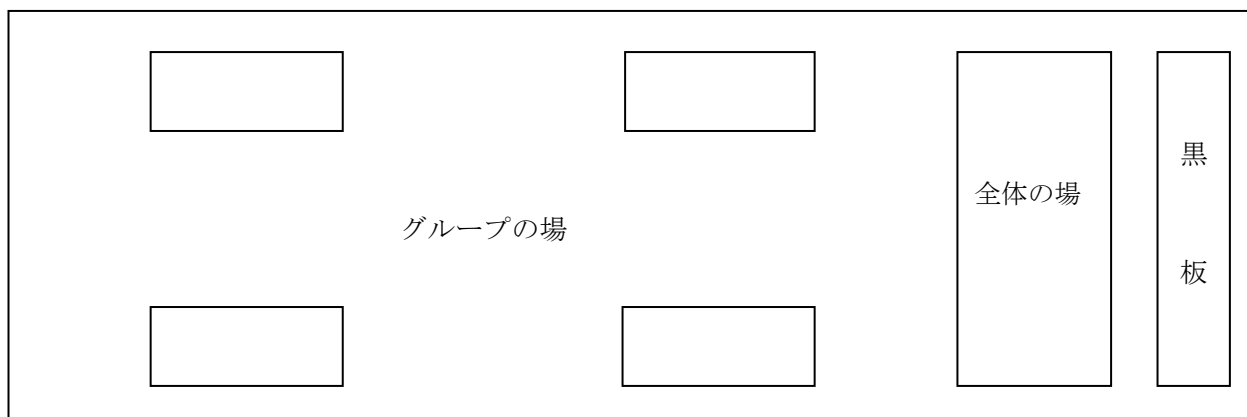
【音楽表現の創意工夫】(6/8時)

評価の視点とその具体の姿	
<p>○評価の視点 【イー②】 鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのようにクラスで一つのまとまりのある音楽をつくるかについて、自分の考えや願い、意図、見通しをもっている。</p>	
<p>○支援が必要とされる子どもへの働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習で、音楽をつくることができにくい子どもには、板書を見たり、グループの友だちの意見を聞いたりして、音楽をつくるように助言する。 ・表現の工夫に気付きにくい子どもには、相手のグループのめあてを意識して聴くように助言する。 	<p>○質的に高まった状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい演奏にしようと、グループのみんなに積極的に声をかけている。 ・相手のグループの表現の工夫について、的確に意見を言っている。
<p>○具体的な評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の活動で学んだ、音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かして、どのように自分たちの音楽を工夫しているかどうかを、つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カードから見取る。 	

(4) 板書計画



(5) 活動の場 (音楽室)



1 1 本時の学習（7／8時）

(1) 目標 鑑賞の活動で学んだ、反復や変化などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもってクラスで一つのまとまりのある音楽をつくる。

(2) 展開

学習活動 「 」発問 ・児童の反応	*支援 ○留意点 本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 前時の学習を想起する。 「グループでつくった音楽を演奏しましょう。」</p> <p>2 本時のめあての確認をする。</p>	<p>*前時の学習を想起することにより、学習の見通しをもつことができるようにする。</p>	
<p>自分たちのつくった音楽をつなげて、クラスで一つのまとまりのある音楽をつくろう。</p>		
<p>3 全体で音楽のつくり方を確認する。 「音楽のつくり方を確認しましょう。」 ・前にアドバイスしてもらったことを生かして完成させよう。 ・音のバランスを考えよう。</p> <p>4 グループに分かれて、音楽を仕上げる。 「グループに分かれて最後の練習をし、音楽を仕上げましょう。」 ・三つの楽器のバランスを考えて、太鼓を小さくしよう。 ・もっとかけ声を大きくしよう。</p> <p>5 つくった音楽を発表し、全体で聴き合う。 「つくった音楽をつなげて、クラスで一つの音楽を完成させましょう。」</p> <p>6 次時の予告をする。 「次時は、もう一度『壬生六斎念仏』を聴き、曲の魅力を探りましょう。」</p>	<p>*全体で、工夫の仕方を確認することにより、グループ活動がスムーズにできるようにする。</p> <p>*鑑賞の活動で学んだ、反復・変化などの音楽の仕組みを生かすことにより、クラスで一つのまとまりのある音楽をつくることができるようにする。</p> <p>*発表は録画・録音することにより、後で確かめることができるようにする。 *感じに合った音楽になっているかを交流することにより、つくった音楽のよさを認め合うことができるようにする。</p> <p>○学んだことを、学習カードに書くようにする。</p>	<p>【ウー②】 鑑賞の活動で学んだ、反復や変化などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもってクラスで一つのまとまりのある音楽をつくっている。 (演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カード)</p>

(3) 評価活動の実際

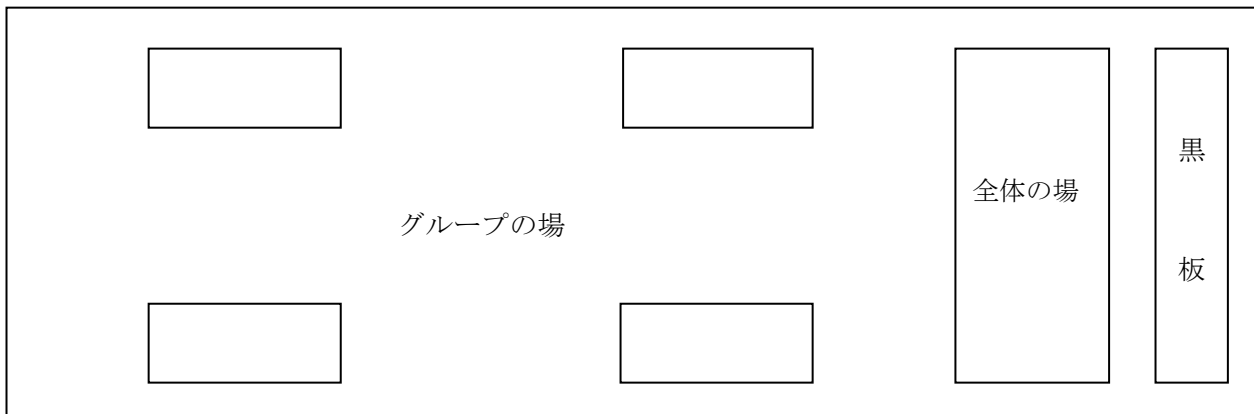
【音楽表現の技能】(7/8時)

評価の視点とその具体の姿	
○評価の視点 【ウー②】 鑑賞の活動で学んだ、反復や変化などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもってクラスで一つのまとまりのある音楽をつくっている。	
○支援が必要とされる子どもへの働きかけ ・音楽をつくることができにくい子どもには、板書を見たり、グループの友だちの意見を聞いたり、友だちの音をよく聴いたりして、音楽をつくるように助言する。	○質的に高まった状況 ・よりよい演奏にしようと、グループのみんなに積極的に声をかけている。 ・表現の仕方を工夫し、曲想や音楽を形づくっている要素を生かした演奏をしている。
○具体的な評価方法 ・鑑賞の活動で学んだ、音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かして、それぞれがつくった音楽のよさを聴き合いながら、クラスで一つのまとまりのある音楽をつくっているかどうかを、演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カードから見取る。	

(4) 板書計画

自分たちのつくった音楽をつなげて、クラスで一つのまとまりのある音楽をつくろう。		
感じたこと	音楽のつくり方 ・三つの楽器のバランス ・何回くり返すか ・変化をつける(速度、かけ声など) ↑前のアドバイスを受けて考える ↓さらに ・順番をどうするか ・始めと終わりが分かるように ・グループどうしつなげる時どうするか など	グループごとの 感じのめあて
気付いたこと		

(5) 活動の場(音楽室)



1 1 本時の学習（8／8時）

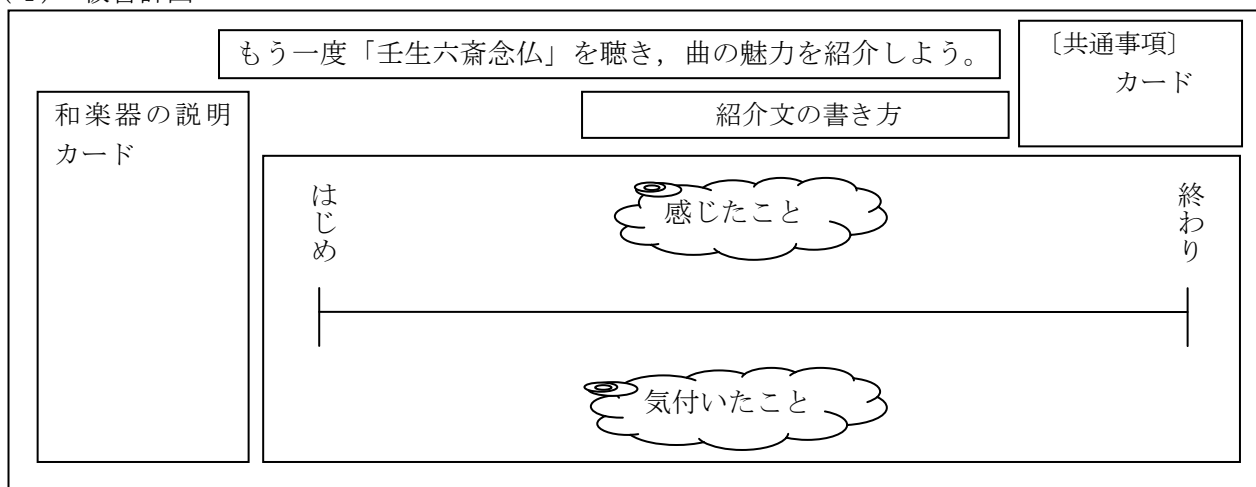
- (1) 目標 音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などの関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴く。
- (2) 展開

学習活動 「 」発問 ・児童の反応	*支援 ○留意点 本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 前時の学習を想起する。 「前時につくった、自分たちの音楽を視聴しましょう。」 ・クラスでまとまった音楽をつくること ができたね。</p> <p>2 本時のめあての確認をする。</p>	<p>*前時に録画・録音したものを視聴することにより、自分たちの作った音楽を確かめることができるようにする。</p>	
<p>もう一度「壬生六斎念仏」を聴き、曲の魅力を紹介しよう。</p>		
<p>3 「壬生六斎念仏」を聴き、感じたことや気付いたことを交流する。 「もう一度聴いて、感じたことや気付いたことはありますか。」 ・にぎやかな感じがした理由がわかったよ。 ・三つの和楽器の音色がはっきりと聴き分けられたよ。 ・反復や変化がよくわかったよ。</p>	<p>*第1時・第2時で交流した、感じたことや気付いたことが書かれているカードを提示することで、音楽づくりをした後に改めて聴いた時との違いを感じるができるようにする。</p> <p>*何回か曲を聴いたり、楽譜をよく見たりすることにより、音楽を形づくっている要素である音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などに気付くことができるようにする。</p>	
<p>4 曲の魅力を伝える紹介文を書く。 「『壬生六斎念仏』を聴いて、曲の魅力を紹介しましょう。」</p> <p>(紹介文の例) 「壬生六斎念仏」は、鉦・太鼓・笛の三つの和楽器で演奏されています。鉦は、打つ場所で音色の高さが変わるので、にぎやかな感じがします。笛は、音階が決まっています。いくつかのまとまりが反復されて、音楽ができています。壬生六斎念仏は、私たちが住んでいる壬生で昔から伝わっている伝統音楽です。ぜひ聴いてみてください。</p>	<p>*例文を提示することにより、紹介文の書き方の参考になるようにする。</p> <p>*①楽器の種類、②音楽を形づくっている要素などを用いて紹介文を書くことにより、楽曲の特徴や演奏のよさを伝えることができるようにする。</p> <p>*地域の伝統音楽であることを改めて伝えることにより、地域にあるすばらしい伝統を大切にしたいという思いをもつことができるようにする。</p>	<p>【エー②】 音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などの関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。(聴いている様子の観察・発言・紹介文)</p>

(3) 評価活動の実際
【鑑賞の能力】(8/8時)

評価の視点とその具体の姿	
<p>○評価の視点 【エー②】 音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や音色・リズム・旋律・音階・反復・変化などの関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。</p>	
<p>○支援が必要とされる子どもへの働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素が聴き取りにくい子どもには、既習の学習や、[共通事項]カードの掲示を見て、どれにあてはまるか考えるように助言する。 ・紹介文を書くことができにくい子どもには、例文や板書を参考にしたり、音楽を形づくっている要素の言葉を使って書いたりするように助言する。 	<p>○質的に高まった状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや気付いたことについて、音楽を形づくっている要素の言葉を用いて、積極的に発言している。 ・音楽を形づくっている要素の言葉を的確に用い、紹介文を書いている。
<p>○具体的な評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いているかどうかを、聴いている様子の観察・発言から見取る。 ・音楽づくりの活動で培った力を生かして、曲想と音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取っているかどうかを、紹介文から見取る。 	

(4) 板書計画



(5) 活動の場 (教室)

